詰将棋全国大会レポート（９）

平成５年度全国詰将棋大会

１９９３年７月

四日市市　四日市市民文化センターにて

参加者　５７名

詰将棋パラダイス　１９９３年８，９月号より

平成五年度 全国大会報告

関　呑舟

平成五年度全国大会が、七月三日に四日市市民文化会館に於て催された。地理的な不便さ、梅雨、予約など不安材料が多く心配されたが、遠くは岩手、福岡、島根、香川などから、57名の参加を得た。

詳しいリポートは次号に譲って、概要の報告をします。

大会に先立って、午前中に全詰連の幹事会が開かれた。内容以下の通り。

一、役員改選

会　長　岡田　敏

副会長　森田正司

幹　事　門脇芳雄　柳田　明　角　建逸　宇佐見正　明石六郎　水上　仁　清水一男　酒井克彦　関　半治　柳原裕司

会　計　小島正司

監査役　安平昭二

まず、幹事全員の留任が確認され、次に、新会計の小島氏が承認された。そして、会長、副会長の選出。岡田会長は再選されたが、門脇副会長の辞意が固く、新しく森田氏が副会長に選出された。

その森田副会長から、「東北支部はじめ各地のグループ（彩棋会、詰工房、駿棋界、香龍会、ＡＣＴ、九州Ｇ他）から、適任者を幹事としてはどうか」と提案があり、可決された。各グループのご協力をお願いします。

二、平成四年度会計監査報告

三、看寿賞選考委員会報告

四、段位認定委員会報告

作家の部の規定案を討議。整理でき次第誌上にて発表する。

五、詰将棋データベース委員会

門脇委員長を中心に推進する。

六、詰棋書整理、保存委員会

森田委員長を中心に推進する。

七、詰将棋年鑑

必要性は認められるが、問題が多く審議未了となる。

八、次回の開催予定

来年五月の連休に東京地区で開催。世話人代表は金子清志氏。

平成五年度全日本詰将棋連盟全国大会参加者

岩手　原田章雄

埼玉　大村昌利

千葉　栗山義史

東京　大橋健司　金子清志　川　清雄

佐藤宗弥	清水英幸	角　建逸
相馬慎一	森田正司	山下雅博
湯川博士	湯村光造	
馬詰恒司	門脇芳雄	谷川俊昭
柳田　明		
佐野公男		
岡本正貴	木村　詢	鈴木芳己
関　半治	髙木伸英	橋本守正
長谷川隆	深井一伸	山田　剛
篠田義雄		
井上久良	清水一男	須藤大輔
田原　宏	林　隆	真弓和也
岩本　修	岡田　敏	
林　泰伸		
菊田裕司	佐生和弘	田代達生
明石六郎	乾　俊雄	小島正司
塩田　洋	白川幸司	長谷繁蔵
弘光　弘	大和敏雄	
宇佐見正	水上　仁	柳原裕司
井内直紀		
髙見秀夫		
江崎正美	八尋久晴	

今大会に当たって、次の方々よりご寄付を頂戴しております。御礼の言葉とともに、ご報告申し上げます。

一、鈴木芳己
　佐藤宗弥「うづ潮」60冊
一、小島正司　書籍売上金
一、詰将棋研究会　詰棋めいと20冊
一、門脇芳雄　金壱万円也
一、大橋健司　金壱万円也
一、山下雅博　金五千円也

大会の内容（13時～17時）

一、開会挨拶　岡田　敏会長
二、来賓挨拶　小林健二八段
三、看寿賞選考結果発表　森田正司
　受賞者及び作品紹介
四、全幹事紹介
五、大いなる発言　全　員
六、アトラクション
　イントロクイズ　東京詰工房
　あぶりだし組曲　岡田　敏
　初型曲詰「トウカイ」岩本　修
七、閉会の挨拶　森田正司副会長

指導対局のあい間に会場に顔を出された小林八段に、突然、ご挨拶をお願いして快諾を得ました。その一部は、「よく、プロ棋士の頭の中はどうなっているのかと聞かれるが、私の方こそ、難しい詰将棋を解いたり、作ったりする人の頭の中はどうなっているのか知りたいものです」というものでした。誌上をお借りして、改めて御礼申し上げます。

パーティ（18時～20時）

18時より別室にて、小林八段、清水女流王将他のプロ棋士を混じえてのパーティが行われた。一般の人も一緒だが、半分ぐらいはパラ軍団。座り込んでビールを飲む人、女流棋士と話をする人（口説いていたのではない—水上）女流棋士と記念写真を撮っている人などなど、時間を忘れて楽しいひと時を過ごしました。終了後も二次会へ出かけ、夜の街に大トラの雄叫びがこだましたのは言うまでもありません。

平成５年度

全国詰将棋大会

７月３日　午後１時　三重県四日市市文化会館にて

大橋　健司

四日市の整備された町並みを歩くと、じきにコンサートも良い音で聴けそうなモダンな建築物が現われてくる。はて詰将棋の大会には派手すぎる。一瞬会場を間違ったかなと思ったが、今回は《東海将棋ファンの集い》の一環で行われる事を思い出す。会場は既に中学生やら若い女性やら、アマ強豪らしき人々でごったがえしている。駒音も高く繰り広げられている。熱戦には目もくれず、ひたすら詰棋党は奥へ奥へと突き進む。そうです。最も奥まった所、何もなさそうな所に行けば、そこが詰将棋の集まりなのだ。

と言って我ら詰棋人の会が暗い訳ではない。ただ我々の活発で明るい活動は一般常識的な道具や言語を必要とせず、はた目には只じいっと座っているだけに見えるのだ。

テーブルには将棋盤が並べてあるが、東海将棋ファンの一人が警察か病院に通報しない為の予防手段に過ぎない。

本日の司会は今大会の世話人でもある関呑舟氏。鬼の呑舟がニコニコ優しい顔で挨拶されると、この先何があるやら不気味な感じがしてくる。

看寿賞授賞式

岡田会長の挨拶が終わると注目の看寿賞の発表と表彰式。

短編は該当作なし。中編はは相馬慎一氏の33手詰。長編は添川公司氏の145手詰。

そして添川氏は欠席の為、相馬氏のみの受賞式となったのだが、なんと、手違いで表彰状が用意されていない！でも渡す筈の森田副会長も受け取る筈の相馬氏も一向に動ずる風がない。さらりと授賞作の鑑賞に入ってしまった。ウーム、さすがは詰棋人。

司会が聞き役で名局を披露し授賞式はつつがなく終了した。（賞状がないので入れる筒がない）

大いなる発言

次に参加者全員の自己紹介が始まる。普段詰パラ誌上でおなじみの顔と名前が一致するのは楽しみのひとつ。愉快な話も聞けて、あっと言う間に時が過ぎる。

印象に残った話を二、三掲げると、山下雅博「18才から2作づつ入選すると68才で同人入り達成」とは見事な構想。

門脇芳雄「詰将棋のデータベースを作ります。PC98レベルでスピード検索が出来そうです」との事で、作家にとって近い将来に大変な武器が手に入りそう。

原田章雄「女から逃げて、東京に行ったら競馬で当たって長逗留。そのまま全国大会に来たが、帰りに関西競馬をやってゆくので、またまたいつ帰れるか分からない。そんな訳で詰恋会会報（詰将棋同人誌）の発送はもう少し待って」と無茶苦茶な話に全員爆笑。

詰将棋イントロクイズ

それから私の最も苦手な、詰将棋カルトQ《イントロクイズ》の始まり。これが絶大なる人気があるとはねぇ。古今の名作の初手（ないしは数手）を聞いただけで作者・作品名を当てろと言うのだから、どだい私には無理な相談である。

さて、予選は水上仁、田原宏、角建逸、栗山義史、相馬慎一、山下雅博が通過し、決勝は水上、山下の対決。

結局、人間データベースの異名を取る山下雅博氏の優勝となった。

さらに逆のクイズと言える、王から順に駒を配置して作者・作品を当てるクイズを始めたが、これも山下氏の優勝で、これからは山下氏ぬきでやろうと言う声が出る。

この他に、鈴木芳己・佐藤宗弥共著の「うづ潮」が参加者全員に贈呈されたり、岡田会長の《あぶりだし組曲・ミエ》や香龍会提供《初型曲詰・トウカイ》を正解すると記念品が貰えたりで参加費千五百円は安い。

親睦パーティー

ご用とお急ぎでない方は、これからが本番なのだ。

今回はプロ棋士も交え、指将棋との合同パーティー。

明日の決勝戦の抱負等をアマ強豪にインタビューしている最中にあまり騒ぐわけにもいかず、我が同志達も暫くは借りてきた猫。

だが、そのうち写真の如く、完全に我々の会との錯覚を始める。勿論パーティーは時間どおり健全に終了するので、余ったパワーは二次会に注がれることになる。こうなってくると、詰棋人達の輪郭が次第にはっきりしてくる。棋力、作風、得意分野、性格、好み、弱点、テンポ、酒力、などの情報が酒の力によって増幅され、歪曲され、往々に寸断されながら相手に伝わる。これで詰パラ誌上でしか知らなかった棋友が100年の友となる。

これだから全国大会はやめられない。忙しくて先に帰られる方や、まだ全国大会未参加の方にこのクライマックスをお見せしたい。

翌日のおまけ

いつもだと翌日は慌ただしく帰るのだが、指将棋の会はこの日もある。会場の賑わいに誘われて、ついついのんびりしてしまう。

ふと見ると写真の怖いおじさんが大道将棋をやっているではないか。

「オッ、お兄さんは強い！」などと軽口を飛ばして客をうまくサバいているのは門脇芳雄氏。よく見ると客よりも御本人の方が楽しそうである。

その隣では《駒作りを楽しむ会》が見事な彫駒、彫埋、盛上駒を展示即売している。それぞれが趣味で作っているとかで、材といい、入念な仕上げといい、全く安いの一言。

暫くあっちがいいい、こっちがいい、と見ているうちに人だかりが次第に増えてくる。結局、私と栗山義史、大村昌利、関呑舟の各氏が買う事になる。前日、詰工房の本が売れた代金があるとかで、「この金があるから悩むなあ」と言っていた柳田明氏がどうされたかは不明。

というところで、今回の報告は終り。

提案

★全国大会で解答番付上位の表彰、短評賞、その他楽しい賞を増やしたい。

★今回のように大道将棋や駒の即売会、作品集の販売があると楽しい。

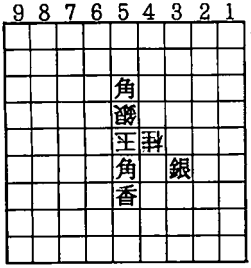
★遠路の珍客、初参加の人は特に念入りに紹介したい。

★記念写真は出来るだけ全員で撮りたいが大人数だとプロの手が要るかも。

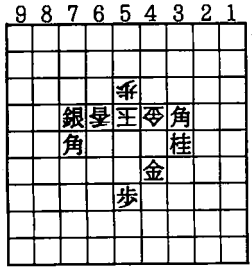
では、次の東京大会で会いましょう！

●出題　香龍会

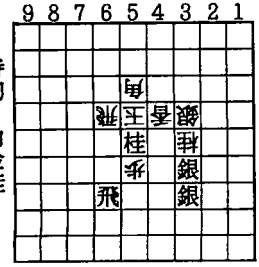
持駒　金金



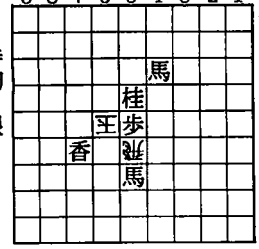
持駒　桂



持駒　角金桂



持駒　銀



（解答省略）